

第 35 号 コーセン・ほび倶楽部通信

連絡先
0859-75-2124

春雑感

今日の社会をリードしている人達は、先の大戦前後生まれが圧倒的に多い様に思います。時代背景の中で人に先んじ、より多く学び、より多く働き、より多く稼ぐ、モーレツ人間的なイメージがあります。今に比べて多くの人々に囲まれ、一歩でも早く、少しでも多く、と教育的にも社会的にもそんな状況でしたから、ごく当たり前のことです。でもこれからは、人口は増えませんが、人を押しのけることも、人より速くなんでもやらなくては、などそんな必要はあまりなくなっていくのだと思います。少なくとも人達が協力し合って、ゆっくり、じっくり人生を楽しむような環境になりつつあるといえます。

昔、ガタゴト道を、おんぼろバスに乗って移動していても、両親と歩いて田んぼや畑に向かっている時、何もつらくはなかったし、苦しくもなかったものです。それどころか道端や田の畦で摘んだ木の実や草の実を、ポケットに忍ばせた塩で食べたりもしました。特別おいしいはなかったけれど、自分で食べ物を見つけた喜びはまた格別でした。今思い出すと、ほのぼのと幸せ感が甦ってきます。最近、母や家内が汗する極々小さな畑を請われるまま手伝います。土を耕して種をまき、芽が出るのを楽しみに待ちます。やがて葉が育ち、花が咲き実を付けます。私たちは有難くそれを頂きます。本当に幸せなことだと思えます。季節の中で出来たものをその時いただく、決して強要したり急がせたりしない、ときが来るまで待つ。人との関りもそうありたいものです。

ただ、この春で東日本大震災の日から、はや一年が過ぎました。関係者の皆様の心労を思うと、一日も早い復旧復興を願わずにはいられません。だれもが安心して田や畑や食事が楽しめるようになってほしいものです。余分ですが、野菜が育つとき自然のルールに従って、実に順序良く成長するものだと感心しながら眺めます。

今わが国では、政党間で足の引っ張りっこをしているように見えます。日本という植物が生きて育つには、ここにもきつと自然のルールがあるのだと思います。そして、その根っこは私達国民だということの普遍的ルールが。

春の日差しに誘われてつい世迷言を述べました。

失礼の段お許しください。



3月の末、春を待つ大山

社名の由来

セメダイン(株)

平成23年を表す漢字として『絆』という字が採用されました。人々のつながりや結びつきが、それほど強く求められたからなのでしょう。この言葉から連想して、今回は接着剤の老舗セメダイン(株)をご紹介します。

普段の生活の中で少しヒビが入ったり剥がれたりしたものを簡単に直したり、また当社でも建築やおにさび砂舗装で、色々な接着剤を使用します。しかし大正末期まで、国産の製品はありませんでした。それまでは舶来品を使っていたのですが、第一次世界大戦の影響で外国製品の輸入は大きく減少し、性能の良い接合材が求められました。そこでその開発に取り組んだのが、今村善次郎という人物です。彼は苦労の末、夜間中学を5年掛けて卒業すると、商売の傍ら自分で今村研究所を立ち上げ、ついに日本の糊に変わる強力な接合材を完成しました。大正12年のことでした。当時この製品類は薬局で販売したため、接合材ではなく接着剤としました。また商品名は「結合材のセメント」と「力の単位ダイン」を組み合わせて命名しました。



昭和10年代にブームとなった模型飛行機作りの波に乗り全国に広まり、昭和31年にセメダイン(株)となりました。筆者も兄たちに混じって竹ひごを曲げたり、リムというアルミのパイプでそれをつなぐときにセメダインを使ったことを、今でも覚えています。最近では、くつつけるものを選ばない製品も、多数販売されているようです。会員の皆様も、知らず知らずのうちに使っているかもしれませんね。

グラウンド・ゴルフ大会

恒例となりました『コーセンはっぴーライフ杯G・G大会』を来る6月2日に開催します。今回は第七回ということでラッキーセブンの7位を中心に豪華商品を設定したいと計画しています。実力のある人ない人、運のある人ない人、どなたでもかまいません。多数の参加、お待ちしております。(会場の都合で100名様といたします。お早目にお申し込みください。)

日時 24年6月2日 参加費 800円
場所 せせらぎ公園(江府町) 申し込み締め切り
受付 8時30分より 5月25日
開始 9時より

問い合わせお申し込みはお電話等で

TEL 0859-75-2124
FAX 0859-75-2933

日野川に架かる橋

鳥取県発注の国道181号線バイパス江府道路の終点側江府町荒田で、日野川に橋を架ける工事を行っています。

水面より8メートルも深く掘り下げて、コンクリートの柱を作ります。川底には土砂が堆積していますが、その下は固い岩盤となっています。それを、ダウンザホールハンマーという特殊な大型機械で穴を開け、矢板と呼ばれる鉄の板を差し込んでいきます。最後にはごらんのようになり、ぐるりとつながって四角い穴となります。そこに鉄筋を組み立て、型枠という木の板で囲み、コンクリートを打ち込みます。紙面ではサーッと説明しましたが、実際にはそう簡単にはいきません。写真の矢板の打ち込みは、112枚を2ヶ月間かかりました。岩盤の固さの検査や、鉄筋の配置、太さの検査など、何十回も検査や確認があります。



日野川の中に締切をして施工しました。写真は綱矢板施工状況

橋を支える基礎部分には沢山の太い鉄筋を使用します。



掘削はアームが長〜く伸びるパワーショベルを使います。



基礎部分、幅9m、柱直径4m、高さ8mの橋脚。下にいる遠藤部長が小さく見えます。

埋め戻して完成してみるとアレコレだけ〜



完成

神宮お参りしました

このほど神社庁関係のツアーにて、お伊勢参りを体験いたしました。筆者は、三十数年前の若かりし頃参拝の経験がありました。参道脇にある大正天皇御手植えの松や、樹齢千年とも二千年とも言われる杉や檜の大木などは、あの頃と何も変わることなく静かにたたずんでいます。生憎の雨模様でしたが、一層荘厳な気持ちで参拝が出来ました。帰りには少し足を伸ばして、静岡県龍潭寺を見学しました。この寺は、戦国時代徳川四天皇の一人井伊直政を輩出した井伊家の菩提寺です。鶯張りの廊下の天井には左甚五郎作、龍の彫刻が、本堂裏の見事な庭園は小堀遠州作ということで、筆者にとってはまさに垂涎的でした。短時間ではありましたが、日本の真髄に触れる旅でした。



伊勢神宮参道



左甚五郎 作 龍の彫刻



みごとな庭園



縁側に腰かけて見学

自然薯コーナー

私たちがおにさび砂の有効利用として自然薯栽培に取り組んで、早や5年目の春が来ようとしています。最初のころは西も東も解らず、言われるままに栽培していましたが、ようやく皆さんにおいしいと言っていただけのもが出来たようになりました。色、形、食味、粘り、どれも高原ならではのもです。又、倍土といわれるパイプの中につめる土も、おにさび砂の他貴重な粘性土など、絶妙なバランスで配合することも出来る様になりました。これからじっくりと栽培に取り組もうと、決意も新たにしている次第です。

そこで、この栽培を自らのものとして楽しんで頂くために、オーナーを人数限定(10名)ですが募集いたします。5本で一万円です。5月の2日3日に植え付けいたします。自分たちの自然薯が、やがて芽を出しスクスクと育つのを見守り、11月の取入れまで楽しみが続くのですから、何ものにも変えがたいお値打ちといえます。受け付けは、随時電話等でお受けいたします。先着10名様に限りです。定員になり次第締め切らせていただきますので、早承ください。

ビフォーアフター

筒井家

鳥取県江府町下蚊屋(さがりかや)は、岡山県境にある大変歴史の古い集落です。資料によりますと千三百三十二年に後醍醐天皇の再上洛の折、この地名がつけられたとあります。今回ご紹介いたしますのは、この地で趣味のそばうちを楽しみながら、農業にいそしむ筒井家様のお墓です。小高い山の中腹にある墓地は、春には竹の子が進入し、秋には木の葉が舞い落ちて、それはそれは掃除が大変だったそうです。工事内容は縁石の並べ替えに始まり、墓石の移動、新設としておにさび砂舗装と続き、隣接の空き地には竹の子進入防止対策、超防草シートの敷設と大工事となりましたが、長年の懸案が解決して、筒井様ご夫妻は大安心と大満足のご様子でした。



ビフォー



アフター

ピカピカにします

以前にもご紹介しましたが、当社ではお墓のリフォームを行っています。中でも時間が経って、シミや頑固な水垢がついていくらこすっても綺麗にならず、諦めていた汚れが奇跡的に見違えるようになるお客様から大変喜ばれます。この技術を住まいにも生かしたらと取り組んだのが、写真にあるようなケースです。忙しい主婦の皆さんが気に掛けながらついつい先送りしてしまう水周りの頑固な汚れです。これら



ヨゴレでまっ白 ほとんど何も見えません。



水道もヨゴレがびっしり

アフター



ご覧の通りピカピカ、ツルツルになりました



今年も釣りました

の汚れは実は単純なものではありません、長い時間の中で水に含まれる成分に家庭の条件による成分が化学反応を起こし硬くこびりついたものです。したがって市販の洗剤などでは簡単に落ちるものではありません。当社では社長を筆頭にいろいろな薬剤や方法を試してみましたが、お家の中ではご家族の安全を第一に考えますので過激な薬品等は使いません。しかしながら長年取り組んだ成果がごらんのとおりです。しかも短時間です。当社では社長方針によりこの技術を一軒一、二点に限り無料(トイレは有料です)で施工いたします。お試しに気軽く御相談ください。

3月1日は、県内一斉に渓流釣りの解禁になります。待ちに待った釣り人は、夜の明けのを待ちわびて一斉に竿を出します。当社の社長もその一人です。あいにく解禁日が平日だったので、指をくわえて見学していましたが、5時半ごろ痺れを切らしてどこかへ消えたと思うと、6時過ぎにはごらんの大物を引っさげて帰ってきました。どうやら秘密のポイントがあるらしく、毎年のように大物をゲットする社長ですが、いつかそっと聞きだして皆さんにお知らせしたいと思っています。ちなみに写真の山女は35センチでした。



大物ゲットで大満足の社長



ヤマメも大きくなると顔がサケ?



当社前は解禁日に県内外からたくさん釣りが訪れます。

編集後記

毎年1月〜3月は公共工事のピークです。当社も例外ではなく、誰もが忙しく、本号もとうとう4月発行になりました。お詫び申し上げます。本文で紹介しました工事も、3月26日に完成検査を終え、高い評価をいただきました。これもひとえに、日頃声援いただいた皆様のおかげです。ありがとうございます。

連絡先 コーセン・はっぴーライフ倶楽部通信事務局
電話番号 0859-75-2124 川端まで